

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	金田地区 (鹿畑・倉骨・赤瀬・北大和久地区)	令和3年3月25日	令和6年3月19日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	500.04 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	448.29 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	98.57 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	57.91 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	72.84ha
(備考)	

2 対象地区の課題

基盤整備されていない農地は、通作路・水利・形状など農地の条件が悪く、借り手が見つからない。また、一部地域で農地の分散化、点在化が見られ、農地の集約化ができていない。

高台になっている農地は水利をポンプアップで対応しており、コストがかかる。また、一部で獣害（イノシシ、クマ）も発生している。

アンケートで「後継者有り」としている世帯のほとんどが兼業農家であり、高齢化、後継者不足が深刻である。今後、農業を継続していけるか不安である。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

鹿畑地区については、農地の分散化、点在化対策に向けて、人・農地プラン等の地元での話し合いを開催し、農地の交換などを推進していく。また、耕作条件の悪い農地は基盤整備をすることを検討していく。

倉骨・赤瀬・北大和久地区については、耕作条件の悪い農地を改善していくためにも、基盤整備を推進していく。農地の保全を意識して貸し借りをしている農業者もいるので、景観保全の観点からもそういった農業者に引き続き農地を守ってもらう。

規模拡大意向のある担い手が3名いるので、当該農業者に農地を集めていく。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

農地の交換等の取組方針

人・農地プランの話し合い等の地区の話し合いをきっかけにして、農地の交換などを行い、地区の中心経営体、または規模拡大意向のある農業者へ集積・集約化を進めていく。

基盤整備への取組方針

農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備の検討を進めていく。